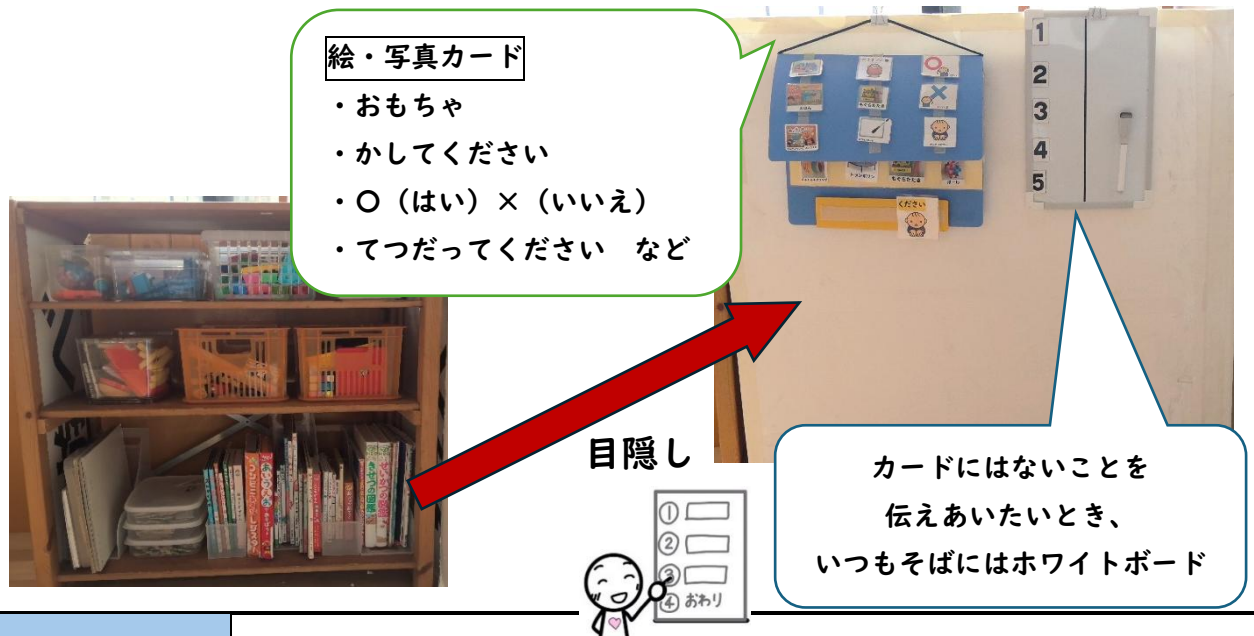


## 環境設定 5

## 目隠し、ついでにコミュニケーション

### 教室内の「おもちゃコーナー」



**絵・写真カード**

- ・おもちゃ
- ・かしてください
- ・○（はい）×（いいえ）
- ・てつだってください など

**目隠し**

カードにはないことを  
伝えあいたいとき、  
いつもそばにはホワイトボード

こんなときに

- ・勝手におもちゃを取りに行ってしまうことがある。
- ・コミュニケーションの機会を、無理なく増やしたい。

こんな子に・・・

- ・視覚からの刺激に敏感に反応しやすい子
- ・自発的なコミュニケーションの少ない子  
（例：棚の中のおもちゃで遊びたいが、出してほしいことを言い出せない、言い方が分からない・・・）

構造化の

視点から・・・

構造化をすることで、日常生活の生活の質の向上が期待できます。しかし、本事例だけでなく、様々な事例は、それをそのまま別の現場で当てはめることはできないのです。なぜなら、場所、配置、人、雰囲気、空気感などの環境がそれぞれ異なり、子どもたちにはそれぞれ素敵でユニークな個性があるからです。

チームで子どもたちの特性を理解し、アイデアを出し合い、緩いけれど持続性のある柔軟性のある環境づくりができたらいいなと思っています。

※参考文献：「気づき」と「できる」から始めるフレームワークを活用した自閉症支援

エンパワメント研究所：水野敦之著

【次へのステップ】

「対教師」とのやりとりがモデルとなり、子ども同士のやりとりにも広がっていく可能性が！

おまけの効果 や 支援のコツ



教室が散らかることが  
なくなりました。

いつの間にかおもちゃを出して、  
取り合いになっていた・・・  
なんてこともなくなりました。

